

# 海拔 10M以下の地価下落率 80%～100%。

\* 下記 1, ~5, は毎日新聞（2011年11月1日付）掲載記事です。

## 1、〔社会〕土地の評価額ゼロは酷い

女川、福島、浦安 で被災地路線価大幅ダウンで住人らショック。

## 2、＜被災地路線価＞「復興意欲そぐ恐れ」評価額「ゼロ」も。

### 3、女川で 海辺に広がる平地の7割以上が津波被害に遭い、

全半壊家屋が3000戸を超えた宮城県女川町。

同町総合体育館で避難所生活を送る佐藤清志さん(60)も1.5km先に海を望む自宅を流された。町の一部で0.2倍（下落率80%）と設定された調整率について、佐藤さんは「家と土地は一生に一度の買い物と思って財産をつぎ込んだ。二束三文で評価されてはたまらない」と話す。

### 4、福島で 鈴木さんが驚いたのは事務所を構える南相馬市などにあった旧緊急時避難準備区域も「ゼロ」とされたことだ。

立ち入り禁止の警戒区域は土地利用ができない為、厳しい評価は予想できたが緊急時避難準備区域は9月30日に指定が解除され、高校が再開されるなど日常が徐々に戻りつつある。

「（評価額がゼロでは）再建を目指す企業や被災者が土地を担保にお金を借りられなくなる」と不安を口にした。

### 5、浦安で 市内の半分近くが調整率0.6倍（下落率40%）と阪神大震災より下落率が大きい千葉県浦安市。

市域の8割以上が液状化の被害を受け、7月1日時点の基準地価は市内12地点中7地点で「判定困難」とされた。

## 6、伊勢志摩地域の海拔ゼロ～10M以下の地価状況。（下落率80%）

伊勢志摩地域も海拔ゼロ～10M以下の地盤の低い地域が多く、低地地域は東北大震災前は坪当たり5万円～6万円地域の下落が激しく、坪当たり1万円～2万円の売地が多く出ています。当地域で海、湾の見える土地をお求めの場合は、当地域のハサードマップにて、海拔15M以上で土地をお探しになることをお勧めします。